平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572710424		
法人名	有限会社 Slow and Slow		
事業所名	グループホーム悠々庵花ごよみ		
所在地	秋田県横手市大雄字西館合75		
自己評価作成日	平成27年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成27年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホーム周辺は四季折々の風景を楽しめる環境にあります。
・「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を運営理念に掲げ、認知症ケアに取り組んでいます。
・利用者、家族、職員との繋がりを大切にし、それぞれ個有の幸福感を得られることを目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域の小学校から運動会や学芸発表会の招待が来たりするほか、避難訓練に近所の方が参加されたり、事業所行事には地域のボランティアが訪問するなど、事業所は地域と積極的に交流している。地域の人たちと交流があることで、事業所が地域住民から様々な協力を得られたり、利用者が地域の方たちとの触れ合いを楽しむことができている。
・週に1回訪問看護に来てもらっており、利用者の状態確認や必要に応じて処置をしてもらうことで、医療面でも利用者が安心して生活できるような体制をとっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を全職員が共有し、意識しながら活動できるよう、ミーティング等で話し合っています。	管理者は申し送りなど職員との話し合いの時に理念について話をしている。スタッフも職員の都合に合わせるのではなく利用者のリズムに合わせること、話す時はゆっくり話すことなど、理念を意識したケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の学習発表会への参加、事業所で行う敬老会等の行事では、地域のボランティアによる余興などを行なっています。	小学校の行事に招待されているほか、小学校で作った米を使ってきりたんぽを作り、小学生を招いて一緒に食べたり、有名な歌手が来訪した時は近所に声を掛け一緒に楽しむなど、地域交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症サポート研修を開催するなど、認知症への理解を深めてもらっていますが、地域貢献までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、外部評価の結果報告を行ない、会議で出た意見や助言は活動に生かすようにしています。	運営推進会議で地域住民から出された提案について実施できるか検討したり、事業所単独で解決できない案件について地域住民が協力を申し出てくれたりと、会議の内容が事業所のサービスに反映されている。	これまでも運営推進会議の内容が事業所サービスに活かされておりますので、より良いサービスを提供できるよう定期的な開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、地域包括支援相談員の受け入れを行ない、利用者の暮らしぶりやニーズを伝えながら、相談したり協力をもらったりしています。	地域包括支援相談員が来訪し利用者の話を聴いてもらっているが、相談内容によっては必要に応じて事業所が日々の支援の中で対応するなど、市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について廃止委員会を開催、管理者を中心に社内研修等で、拘束を行わないケアについて勉強会を行なっています。	管理者が中心となって身体拘束廃止委員会を開催している。現在やむを得ず身体拘束を必要としている方については、説明書及び同意書を作成し、ご家族からも同意を得ているが、再検討の際、必要となる実施後の記録が残されていない。	身体拘束を再検討する際は実施後の記録が重要となりますので、実施後の記録を残しながら慎重に検討を重ねていくことを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、管理者を中心に社内研修を行ない、徹底防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度についての研修を受講しており、必要とするときは活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書等で説明し、家族の意向を一つひとつ確認しながら同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱等は設けていないが、来訪時に、利用者家族に要望や意見を述べていただくようにしています。	家族の来訪時に要望等あった場合は、実現できる場合は実現し、できない場合はその理由について家族に説明を行っている。利用者からレクリエーションや外出の希望があった時は行事に組み入れて実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に職員の意見を聴く姿勢を持ち、提案を妨げたりしないように努めています。	職員から日課の調整について提案があった時は職員間で話し合い、スケジュール変更を行った。会議など話し合いの場以外でも、管理者は職員が相談しやすい雰囲気作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の活用や、勤務シフトの検討など職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域医療福祉連携室主催の勉強会やGH情報交換会などの外部研修に積極的に参加しています。また、毎月、管理者を中心に内部研修を行なっています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム情報交換会に参加したり、地域ケア会議に参加したり、他事業所との連携を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学や、体験入所を通して安心感を持てるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や、事前面接を通して要望等を聴き、速やかに回答できるようにしています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者から生活の知恵を学び、一緒に協力し合いながら過ごしているという姿勢で常に接している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に「花ごよみ便り」や「状況報告書」で日頃の暮らしぶりや身体状況を伝え、状態変化が起きた場合には速やかに報告連絡をし、家族と相談しながら支援していくようにしています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや行きつけの美容院、自宅への外出など、家族の協力を得ながら行なっています。	ご本人から家族や友人との外出希望があった場合は、ご家族と連絡を取りながら実現できるようにしている。また、昔から新聞が好きな方には新聞を読んでもらうなど、以前からの習慣を継続できるようにしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題や、手作業などを通して、楽しみを共有できるようにしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に相談や支援が必要であれば、継続して支援していくようにしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望を聴き、カンファレンス等で話し合っています。	利用者の個性に応じて話題を変えながら本人が話しやすい雰囲気を作り、希望があった場合は職員間で共有し、記録にも残している。意思疎通が困難な場合は、表情や言葉から気持ちを汲み取る姿勢で対応している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ヒアリングシートやアセスメントの活用、家族や関係者からの情報等で、これまでの暮らしを把握し、できるだけ本人らしく暮らせるようにしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を通して一日の暮らしの流れを把握し、カンファレンス等で職員全員が話し合っています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を充分聴き、全職員が意見を出し合いながら計画書を作成しています。	毎月ケアカンファレンスを開催し、職員から利用者の普段の様子を聴き取りながら介護計画を作成している。利用者や家族から要望があった時も要望を取り入れるようにしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護日誌を通し、職員間で情報を共有しながら実践状況をモニタリングしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れは行なっていますが、地域資源の活用までは至っていない。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得たうえで、協力医療機関より、月1回の往診と週1回の訪問看護があり、適切な医療を受けられる体制をとっています。	事業所の協力医療機関のほか、入所前のかかりつけ医に通院している方もいる。週1回訪問看護に来てもらい利用者の状況を看てもらったり、処置をしてもらえるので利用者の安心につながっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、訪問看護センターと24時間相談が受けられる体制をとっています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携により、24時間体制で緊急時の対応ができ、入退院時の場合は速やかに情報交換ができる体制をとっています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、本人家族の考えを聞くとともに、重度化した場合は事業所の指針を説明し、同意をいただいています。	看取りの事例はないが、重度化が予測される利用者の家族からは「看取り介護・医療の同意書」を取り、終末期の対応について意向確認を行っている。看取りの研修も行い、職員間で共通認識を持てるようにするなど体制作りをしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを全職員が目を通せるようにしており、定期的に実践訓練を行なっています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（夜間想定含む）の火災・避難訓練を行なっています。 緊急連絡網に地域の方々も含めており、訓練にも参加してもらっています。	避難訓練は年2回実施しており、近所の方にも参加を呼びかけることで訓練にも協力を得ている。町内の婦人消防隊の総会には事業所から出席し、事業所が協力を得やすい体制作りを進めている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた言葉かけ、タイミングを見ながらの声かけ、声のトーンや表現方法に配慮しています。	介助を行う場合は必ず声を掛けるなど、利用者が安心できる支援を行っている。話をしている時も表情等を確認しながら言葉掛けを変えるなど、本人が不快感を持たないよう対応を工夫している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい言葉かけ、環境づくりを行っています。 コミュニケーションが取りにくい場合は、本人のバックグランドなどを理解し、出来るだけ本人が望むであろう選択で、支援を行なっています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて支援を行なっています。 表現の難しい方は、様子や行動から希望を察し必ず声かけをしてから対応をしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を選んでいただいたり、化粧やヘアスタイルなど、個々に合わせて支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、いつも一緒に食事をするようにしています。 調理方法や味付けなどの希望を聞いてから調理しています。 片付けも積極的にしていただけるような環境づくり、声かけを行っています。	利用者との普段の会話の中で希望メニューが出てきたらそれを献立に取り入れたり、嫌いな食べ物があれば代替のものを提供するなどしている。ひな祭りやクリスマスなどの行事食も、季節感が出るよう見た目も工夫を凝らし、食事を楽しめるような取り組みをしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量や体重増減について記録し、個々の状況を把握できるようにしています。 摂取量が少ないときは本人の嗜好に合わせた物の提供を行っています。 体調の変化について、訪問看護から主治医に連携し相談しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを、毎日の業務スケジュールに組み込み毎食後、行なっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導など、利用者の状態に合わせた支援を行なっています。	排泄チェック表では水分摂取量も記録し、一人ひとりの排泄パターンに応じて時間を調整しながらトイレ誘導を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に運動や食事、調理の工夫を行なっています。 自然排便が困難な方は必要に応じて下剤の処方をお願いしています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は、バイタルチェックを行ない健康状態を確認しています。 入浴拒否の強い方などは、曜日や時間帯に関わらず入浴できるようにしています。	入浴は1人ずつゆっくり入れるように行っている。入浴を好まない方でも穏やかな気持ちで入浴できるよう声掛けなど対応を工夫し、入浴した後は気持ち良くなってもらえるようにしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に日中の休息時間を設けています。 睡眠障害のため夜間眠れない場合は、眠剤の処方をお願いしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している個々の薬の内容は、個人ファイルに綴じ全職員が目を通せるようにしています。 誤薬防止のため、薬に関わる職員がその都度確認を行っています。 臨時薬については、介護日誌や連絡帳、申し送りで確実に伝達しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で行うことのできる日常の家事や作業を通して役割を感じていただいています。 誕生会やレクリエーションを皆で行うことで楽しみを共有しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状態に合わせて短い時間でも外出できる機会を作っています。 家族の協力を得ながら、定期的に外出している方もいます。	招待が来る小学校の運動会や学習発表会のほか、お花見や近くの公園のあやめ祭りなどに行っている。天気が良い日は近所を散歩したり、外でのんびりお茶をしたりと外で過ごす時間を作るようにしている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、個人の力に応じた支援をしています。 お金を使うことについては、その都度家族と相談しながら行なっています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らの電話については、家族の了解を得たうえで行なっています。 個人で家族との連絡用に携帯電話を所有している利用者もいます。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、明るく清潔を心がけ、動線にはよけいな物を置かないようにしています。 室温、湿度、日差し等については、毎日チェックをしています。 事業所内には、いつも季節の生花があるようにしています。	共用空間は窓が大きく、明るい空間となっており、車椅子利用者も移動しやすい広さとなっている。行事の時に撮った写真が明るい雰囲気の装飾と共に掲示されており、利用者の方がいつでも写真を見て楽しい思い出に触れることができるようにしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビング、廊下にソファーを置き、それぞれ好きな場所に分かれて、過ごせるようにしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人や家族と相談しながら、使い慣れた物や見慣れている物などをレイアウトしています。	居室はストーブ、換気扇が備え付けられており、レースのカーテンも各居室に付けられていてプライバシーが確保されている。利用者によっては家族から届いた写真や行事で撮った写真を掲示したりと住み心地良い空間作りがされていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は、整理整頓を心がけ安全の確保をしています。 トイレの標示や、居室入口に名前を表示するなどをしています。		